

## Stage4

Zak and Zee

ザックとジー

作・ジャンヌ・ウィリス

絵・マーク・オリバー

### <読むまえに>

お子さんが読むまえに、この本についてお子さんと話しましょう。

- ・表紙と裏表紙を見ましょう。この本にどんなことが書かれているかヒントがみつかります。
- ・2ページと3ページを開いて、この本の登場人物を確認しましょう。ザックとジーのちがいについてお子さんと話しましょう。ザックの大きな目とジーの小さな目に注目してください。
- ・この本の残りの部分にざっと目を通して、絵を見ましょう。お子さんに、このお話でどんなことがおこると思うかたずねてください。

### <読んでいるときに>

自分のスピードで読めばいいよと、お子さんにいってあげましょう。

お子さんが単語を読むのにつかえたときは、次のようにうながしてあげてもいいでしょう：

- ・ことばを声にだしていってごらん。
- ・その文章のはじめにもどって、もう一度読んでみよう。
- ・絵を見るとわかるよ。

### <ひっかかることば>

ここにあるのは、お子さんがこの本を読むときにひっかかりそうなことばです。

their 彼らの

called よびかける

eyes 目

dragonfly トンボ

yellow 黄色

another もうひとつの

reply 返事をする

softly やさしく

[p. 1]

ザックとジー

作・ジャンヌ・ウィリス

絵・マーク・オリバー

[p. 2]

お話にでてくるもの

虫のザック

[p. 3]

虫のジー

[p. 4]

2匹のみどり色の虫が木にすわっていました。

1匹はザック、もう1匹はジーです。

[p. 5]

ザックは大きな、大きな黄色い目をしており……、それはトンボの目よりも大きな目でした。

[p. 6]

ジーはとても小さな目をしていました。

ジーは目がよく見えませんでした。

[p. 7]

ジーは1匹の虫に会いました。

「こんにちは！」、ジーは声をかけました。

もう1匹の虫は返事をしませんでした。

[p. 8]

「あれ」、ジーは言いました。「どうしてだろう？ なぜこの虫は返事をしないのかな」

[p. 9]

「たぶん聞こえなかっただけだな」。そこでジーは、虫の耳にむかってさげびました。

[p. 10]

「お茶を飲みにこない？ いっしょにきて、お茶を飲もうよ」

[p. 11]

それでも、虫は返事をしませんでした。

そこでジーは、またためてみました。

[p. 12]

「お茶を飲みにこない？ いっしょにきて、お茶を飲もうよ」

[p. 13]

「それ、ぼくのおしりだよ！」、ザックはやさしく言いました。

ジーは、真っ赤かになりました。

[p. 14]

「ぼくの目は顔にあるんだよ」、ザックは言いました。

「きみはずっと、ぼくの背中に話しかけてたんだ」

[p. 15]

「ぼく、実のところ、よく目が見えないんだ。でも、飛ぶのはきみと同じくらいうまくできるよ」

[p. 16]

2匹の虫は、飛んで遊びにいきました。

ザックの目のおかげで、2匹がまようことはありませんでした。

<読んだあとで>

読んだあとで、この本についてお子さんと話しましょう。こんな質問をしてみましょう：

- ・なぜジーはザックの背中に向かって話しかけたのかな。
- ・どうしてザックは返事をしなかったんだろう。
- ・2匹の虫は、次にどんなことをすると思う。
- ・この本を読んでどう思った。

この話をまた読んでみようとお子さんにすすめてください。読む自信をそだて、つかえずに読めるようになります。

<ほかにすること>

この本のことをくりかえし話題にしましょう。お子さんは、かんたんなザックとジーの指人形を作って、このお話をまたするときに使ってもいいですね。